

2008年度 第86回 関西学生サッカーリーグ（第8節）

5/11（日） 鶴見緑地球技場

第1試合 阪南大 vs 立命大

7戦負けなし。全12チーム中、唯一黒星のない阪南大は攻守ともに安定したサッカーで敵を迎える。また一部復帰後、今ひとつ波にのることができない立命大は前節、姫獨大に勝利を収め、今季初の連勝を狙いたいところ。主将DF⑤畑尚行も「なんとしても黒星をつけたい」と意気込んだ。

前半18分、阪南大MF⑦小寺優輝から繰り出された縦一本のパスが、試合を決めた。「良いパスがきたので、決めるだけでした。」とエース⑪木原正和が瞬時にディフェンスの裏へ抜け出し、絶妙なパスをゴールへ送った。この先制点で阪南大は猛攻をかける。しかし、立命大も堅い守備で抑えられたFWに代わり、MF⑨入江崇夫がミドルシュートを放ち援護射撃を送る。阪南大リードで迎えた後半、スコアは動かず、結局前半の1点が決勝弾となり、阪南大は5連勝を収めた。

阪南大は中盤からのプレスが光った。先制弾を演出した⑦小寺や⑧中濱雅之、⑥井手口正昭らが立命大の中心MF⑩山口卓也を抑え、つなぐサッカーを封じた。また「ディフェンスラインは無失点でいたら、前が点を取ってくれるので負けることはない。」と守備陣を牽引するDF④吉川健太。守備陣と攻撃陣の信頼こそがチームの一体感を生み、絶好調の要因だ。首位、関西大との差は勝ち点1。ついに、首位をあと一歩のところまで追いつめた。

（文：フリーライター 久住 真穂）

阪南大 1 { 1-0 / 0-0 } 0 立命大

得点(アシスト)者
18分 木原(小寺)

第2試合 桃山大 vs 近畿大

まだ2勝となかなか勝てない桃山大は前節、関西大との試合で2-1と負け、8位に後退。一方、近畿大は太教大に大勝したことで6位に浮上し、関西選手権を前に踏ん張りどころだ。前期リーグも終盤に差し掛かり、上位に食い込むためにも両者落とせない重要な一戦となった。

試合は早い時間帯に動く。先制点を奪ったのは、桃山大。前半8分、左サイドMF⑥岡田翔太郎のフリーキックをDF④宮内豪が頭で落とし、FW⑩辻和帆が決めた。立て続けに23分にも、MF⑭宮澤龍二がGKのこぼした球を流し込み2-0と桃山大がリード。このまま終われない近畿大は前半終了間際にMF⑦枝本雄一郎が中央突破し個人技で1点を返す。依然桃山大がリードしているものの、この1点で勢いを増した近畿大が後半追いつくかに思われた。しかし、後半開始3分、「後半一点いれたら、試合は決まる」と桃山大・主将DF③北江進吾の言葉通り、桃山大がセットプレーで3得点目を決め、試合の流れを止める一撃をさした。近畿大は中盤の⑦枝本を中心に積極的に攻撃を展開するも、押され気味の桃山大、守備陣が踏ん張り追加点を許さず、守りきった。

試合後、「立ち上がりの集中力も気持ちの面でも、相手が上回っていた。」と近畿大、DF⑤山口卓也主将は敗因を語った。勝った桃山大は「全員で勝つことを意識して臨んで勝てたので、嬉しかった」(北井)と喜びを味わった。

（文：フリーライター 久住 真穂）

桃山大 3 { 2-1 / 1-0 } 1 近畿大

得点(アシスト)者
8分 辻(宮内)
23分 宮澤
48分 船津(國田)

得点(アシスト)者
38分 枝本(平石)

5/11（日） 大阪長居第2陸上競技場

第1試合 関西大 vs 関学大

1部リーグで戦うほとんどのチームは、4-4-2システムを採用している。しかし、関学大は3-4-3という異色のシステムで戦う。ピッチ上でのマークやゾーンの受け渡しなどが難しくなっており、互いに戸惑うのではないかと予想しながら観戦した試合は、いきなり動く。

5分、関西大のFW⑩佐藤悠希がMF③宇佐美宏和のスルーパスに抜け出し、あっさり先制点をゲット。

リードをした関西大は強い。前線からDFラインまでの守備組織構築が迅速で、シュートすら許さないタイトな守りを見せる。この日は守りの柱であるDF 21 大屋翼を最初からCBIに入れており、崩れる予兆が無い。

加えて、前述の関学大の3-4-3に対しても策を練っていた。先制点の佐藤が「相手の3トップ(=1トップ2シャドー)に対しての守備などは考えてきた。」と言った通り、関学大の攻撃を完全に封じ込めた。

関学大は、1年生で先発起用された2シャドーの 26 梶川諒太と 28 阿部浩之が頑張りを見せたが、関西大DFを突き崩せず。関西大の強さが、いよいよ本物になりつつある。

（文：サッカーライター ハヤシ ヒロヒサ）

関西大 1 { 1-0 / 0-0 } 0 関学大

得点(アシスト)者
5分 佐藤(宇佐美)

大院大 4 { 2-1 / 2-0 } 1 同大

得点(アシスト)者
8分 小野
33分 大槻
59分 小野(佐藤)
74分 佐藤(加藤)

得点(アシスト)者
13分 大森(井上)

第2試合 大院大 vs 同大

4-1というスコア通り、大院大が同大のサッカーをよく研究し、確実に勝利を得た。

試合は、大院大で今季ブレイクしている1年生FW 60 小野真国が8分に同大のミス逃さず先制。しかし同大も13分に左右に大きく展開をして、最後はMF⑧大森一樹がファインゴール。

ただ試合の均衡が保たれたのもここまで。大院大は、「同大のSHが上がった後のスペース」(主将⑥馬場悠)と「不安定感が窺えた同大CB」(小野)を狙い打ちし始める。

33分に、カウンターから、狙い通りサイドを突いたFW 48 大槻周平が2点目を叩き込む。通常なら、大院大は、ここから守ってカウンターにシフトしてもおかしくなかった。しかし、この日は同大の弱みがはっきり見えていたのだろう。90分間高い位置からのプレスを切らせることなく、襲い掛かり、59分に 60 小野がこの日2点目、74分にはMF⑩佐藤直裕がシュートを突き刺した。大院大が上位進出への足がかりをつかんだ。

（文：サッカーライター ハヤシ ヒロヒサ）

5/11（日） 野洲川歴史公園サッカー場 ビッグレイクC

第1試合 京産大 vs 大教大

勝点5で10位の京産大と、勝点4で12位の大教大との対戦。お互いまだ勝ち星は1つ同士の対戦だけに、ともに負けられない試合となった。

前線から激しいプレスをかけセカンドボールを拾う速攻に徹する京産大が7分、大教大DFの隙をつき、⑬稲本悠人からのパスに⑯小笠原侑生がフリーで合わせ先制する。もともと前半は風下を狙い後半勝負に出たかった大教大は何とか点差を抑えるため、京産大にシュートを打たせない。その攻守も効き、結局、前半はワンチャンスを活かして京産大が先制した1点のみで後半へ。

後半に入ると風上に立った大教大がロングボールを多用した展開で徐々にペースをつかみ、25分、⑦中曽根和のロングスローが逆サイドに抜け、これを⑩三好洋央が決め同点に追いつく。勢いに乗る大教大は終了間際にはオーバーラップした30 大庭慧之と⑮鳥尾広輔の見事なワンツーが決まり、大庭の「こしかない、神がかり的なシュート(京産大、古井裕之監督)」がネットに突き刺さり貴重な勝ち越し点をあげる。

ロスタイム、京産大もビッグチャンスをつかむが決めきれず、試合はそのまま終了。大教大が貴重な勝点3をゲットした。

(文:関西学連J)

京産大 1 { 1-0 } 2 大教大
0-2

得点(アシスト)者
7分 小笠原(稲本)

得点(アシスト)者
70分 三好(仲宗根)
89分 大庭(鳥尾)

びわこ大 3 { 1-0 } 4 姫獨大
2-4

得点(アシスト)者
8分 瀬古(篠部)
65分 瀬古(篠部)
82分 船津

得点(アシスト)者
58分 沈(松本)
63分 松本(金)
68分 田中(浅掘)
69分 松本

第2試合 びわこ大 vs 姫獨大

破竹の4連勝で自位に躍り出たびわこ大と、3即の勝ち以降、勝ち星から遠ざかっている姫獨大との対戦は強風吹き荒れるビッグレイクで行われた。

前半風上に立ったびわこ大が立ち上がりから優位に展開。そして、8分、姫獨大DFを翻弄するパスワークから、最後はゴール前でフリーの⑨瀬古朋広が決め、びわこ大が先制する。その後も風上の優位を活かし攻め続けるが、決定機を決めきれずに時間が経過。「前半、先制して風上にいながら取りにいけない」と、松田保監督。逆に、もともと狙い通りの風下スタートとなった姫獨大は、「0-0か1-0で終われば勝機がある。(昌子力監督)」との言葉通りの展開で後半へ。

後半に入ると13分、姫獨大が⑳松本祥吾のクロスに⑩沈修輔が合わせ同点に追いつく。「これで慌ててしまった。(松田監督)」びわこ大は、後半18分にも逆転弾を許す。姫獨大は直後、同点に追いつかれるも、「たたみ掛けるのは今(昌子監督)」との勢いは止らず、23分、24分と立て続けに加点。足の速さを武器に今日はFWで出場した㉔松本の活躍が光った。

終盤、びわこ大も②松津徹也の得点で1点差まで詰め寄るが試合はこのまま終了。決定力の違いが出た試合となった。

(文:関西学連J)